

会 議 録

会 議 の 名 称	第3回登米市新図書館機能検討委員会
開 催 日 時	令和6年8月26日（月） 午後1時57分 開会 午後3時35分 閉会
開 催 場 所	中田生涯学習センター 2階 学習室
委 員 長 の 氏 名	山崎 博樹
出 席 委 員 の 氏 名	知的資源イニシアティブ代表理事 山崎 博樹 登米市教育研究会中学校国語研究部長 佐々木 貴子 登米市教育研究会学校図書館研究部長 高橋 朋美 登米市社会教育委員会議議長 阿部 洋一 登米市立図書館協議会会長 西條 正典 図書館ボランティアだっこ・ラッコ代表 富士原 抄子 伊豆沼読書会代表 及川 俊弘 一般社団法人とめ青年会議所理事長 猪股 圭太郎 公募市民 石川 幸 公募市民 佐藤 直也 以上 10 名
欠 席 委 員 の 氏 名	—
事 務 局 職 員 職 氏 名	教育長 小野寺 文晃 教育部長 小林 和仁 教育部次長兼教育総務課長 阿部 信広 教育部生涯学習課長 守屋 乃扶子 教育部生涯学習課長補佐兼生涯学習推進係長 千葉 道宏 教育部生涯学習課主査 伊東 智 迫図書館長兼登米図書館長 木村 浩之 迫図書館副館長兼登米図書館副館長 伊藤 知幸 迫図書館技術主幹 野家 文恵 登米図書館技術主幹 本間 文
議 題	新図書館に求められる機能・サービスについて
会 議 結 果	別紙のとおり
会 議 経 過	別添のとおり
会 議 資 料	資料1：登米市立図書館事業実施状況（令和5年度実績） 資料2：新図書館に求められる機能・サービスについて （全域サービス、アウトリーチサービス、学校との連携等） 参 考：登米市立図書館年齢別有効登録者数 登米市立図書館の閉架書庫の状況について

発 言 者	議 題 ・ 発 言 ・ 結 果
事務局	<p>定刻より若干早いですが、皆さん、お揃いですので、只今から第3回登米市新図書館機能検討委員会を開会します。</p> <p>開会に当たりまして、小野寺教育長からご挨拶を申し上げます。</p> <p>【 教育長挨拶 】</p>
事務局	<p>それでは、議事に入ります。議長につきましては、登米市新図書館機能検討委員会設置要綱第5条第1項の規定により、山崎委員長にお願いします。</p>
委員長	<p>前回会議から2か月が経ち、皆さんいろいろ考えるところもあったかと思えます。</p> <p>前回までは図書館内部の話をして来ましたが、本日は、外部連携だとかアウトリーチサービスといった部分になりますので、議論を交わしていただければと思います。</p> <p>それでは最初に前回の質問に対する回答を事務局で用意しましたので、説明をお願いします。</p> <p>【 事務局説明 ※参考資料 】</p>
委員長	<p>これについて質問などありますか。</p> <p>非常に明快でわかりやすい。一般的に30代から50代の女性が活発に利用しているといわれていますが、それがそのとおり出ています。逆に、ティーンズや働いている男性の利用が少ない。これは多くの図書館で見られる統計で、課題でもあります。</p> <p>次に進む前に、机の上に写真をお配りしていますが、これは登米市の図書館のバックヤードの写真を撮っていただいたものです。これを見ていただければ、状況が非常に厳しいことがお分かりいただけるかと思えます。貴重な資料をダンボールに積んで保管しているのは問題です。</p> <p>何としても新しい図書館を作って、こうした地域の重要な資料をきちんと保存してことが大事だと改めて感じました。</p> <p>それでは、現行の市立図書館の現状について、事務局から説明をお願いします。</p> <p>【 事務局説明 ※資料1 】</p>
委員長	<p>事務局から説明あった内容について、ご意見やご質問などありますか。</p> <p>ないようですので、次に進みます。</p> <p>「新図書館に求められる機能・サービス」について、事務局から説明をお願いします。</p> <p>【 事務局説明 ※資料2 】</p>
委員長	<p>補足ですが、図書館構想の基本方針⑥「市民と共に育ち、市民が育てる」に関しては特に書かれていません。しかし、今日の場合もまさにそういうことです。</p>

	<p>この資料のとおりやるというわけではなく、足りない点があればどんどん付け加えていただきたいと思います。書かれていないことについても議論しても構いません。</p> <p>それから細かい部分ですが、全域サービスの中に「電子書籍を読める電子図書館」とありますが、電子図書館にはもう少し広い意味が含まれます。電子書籍だけでなく、ICT を活用したさまざまなアプローチがありますので、もっと広く捉えていただけて結構です。</p> <p>どなたからでも結構です。ご意見あればお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>全域サービスについては、各公民館などの協力が必要だと思います。</p> <p>公民館やふれあいセンターに図書室が設けられていると思いますが、そこにある蔵書を図書館の管轄にできないかと考えています。</p> <p>公民館が図書館の分館的な役割を果たすのであれば、公民館図書室の蔵書も図書館のサービス対象に入るわけですから、そこを把握しないと今後の貸出しやレファレンス・サービスがうまく提供できないのではないかと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>現時点では、公民館やふれあいセンターといった身近な施設で、図書館資料の借受けや返却ができるサービススポットのような展開を考えています。蔵書の一元化については、今後の検討させていただきたいと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>他に何かありますか。</p>
<p>委員</p>	<p>市町村合併の際、公民館図書室の蔵書を迫図書館に持っていかれました。新田には少し残っているものもありますが、最終的には全て図書館が管轄するということですか。</p>
<p>委員</p>	<p>分館的な役割を果たすのであれば、法律的にも図書館法の枠に入ることになるので、蔵書も図書館で管理しなければならないのかなと思います。この点については、今後、いろいろ検討していかなければならない部分だと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>例えば、南方公民館には南方にとって大切な偉人の本が保管されています。高橋清治郎さんという南方出身の偉人がニコライ・ネフスキーや柳田國男と一緒に歩いたことを調べる場合、郷土史研究者はまず南方の公民館図書室に問い合わせをします。</p> <p>しかし、そういった資料は、登米市の図書館の検索ではうまくヒットしないので、登米市全体の郷土に残る偉人たちの記録も併せて蔵書目録を作成するというのであれば望ましいと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>所属を変えるということではなく、情報を一元的に検索できるようにすることが重要です。これに関しては、図書館だけでなく、美術館や資料館、博物館なども含めて、一元的な情報管理を目指すべきだと思います。</p> <p>ただし、どこに資料を保管するかは、ケースバイケースだと思いますので、別々に考えた方がよいと思います。</p> <p>他に何かありますか。</p>

委員	<p>公民館図書室の充実について、どのような取組を考えられているか、また各町域の公民館図書室の蔵書数を把握されているのかお聞きしたいと思います。</p> <p>豊里図書館の蔵書は、非常に少なく、コミュニティからも図書の充実を求める声が多かったので期待をしています。</p> <p>豊里町域の方は、図書館利用率が低く、本に親しむ人が少ないため、実態を把握した上で今後どう改善していくのかが重要だと思っています。</p> <p>地域ごとの特性を考慮し、図書館の充実に向けた方法をどう進めていくかを考えていただければと思います。</p>
事務局	<p>公民館によって図書室の状況はかなり異なります。豊里公民館の場合、図書コーナーが事務室前にある程度で蔵書も少ないです。</p> <p>一方で、蔵書数も豊富でスペースもしっかりある公民館図書室もあります。</p> <p>このような温度差はありますが、身近な公民館図書室において、本に親しめる場を作っていければと考えています。</p> <p>具体的な方法については、今後検討していきたいと思っています。</p>
委員長	<p>法律上、公民館図書室は、図書館法の範囲外で、社会教育法の中にあります。そのため、法律の枠組みを問題にするのは意味がなく、全域サービスの一つとして公民館図書室を充実させることが重要だと考えます。</p> <p>図書館から公民館へのサービス提供を基本とし、利用者がそこで本を借りることになります。技術的な課題もありますが、人材育成が大きな問題になります。図書館職員の育成も含めて、公民館図書室の職員は兼務が多いため、簡単ではありません。公民館は、全域サービスを展開するための大きな拠点になることは間違いないので、専門的助言も必要になってきます。</p> <p>大きな図書館ができて、そこだけ充実していても十分ではありませんので、全域サービスの話はまさにその課題全体を指しているわけです。</p> <p>他に何かありませんか。</p>
副委員長	<p>東和町の公民館図書室は、結構充実していて、貸出簿など普通の図書館のように管理されています。もし中心市街地に新しい図書館ができた場合、東和町のように遠い場所からのアクセスが問題になるのではと考えています。</p> <p>そのため、移動図書館の導入を強く提案してきましたが、移動図書館に関しては費用対効果など難しさがあると思いますので、公民館図書室が新しい図書館にうまく組み込まれるのであれば、非常に良いことだと思います。</p>
委員長	<p>2千冊程度の移動図書館バスは、購入費用が約2千万円で、15から16年ごとに更新が必要です。さらに本も二重に持たなければならず、運転手や司書の増員も必要になります。</p> <p>現状では、特に地方の移動図書館バスは、行った先に人がいないという問題が出てきています。そのため、移動図書館の運営方法を再考する必要があります。</p> <p>もしやるとすれば、イベントや特定のニーズに合わせた本を持っていく形が良いかと思います。また、人口が希薄な地域では、郵送で本を送る方が効率的かもしれません。</p> <p>登米市はエリアが広いので、何もやらないのは問題がありますので、移動図書館的な機能を持ったサービスを検討された方がいいかと思います。</p>

<p>委員</p>	<p>他に何かありますか。</p> <p>鹿児島県指宿市の図書館では、移動図書館をクラウドファンディングで実現しています。そういった方法も考えられるかなと思います。</p> <p>今すぐというわけではないですが、例えば登米市に読書の習慣が根付いて、需要が高まれば、移動図書館も必要になるのかなと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>やり方については、今後進めていく中で検討していただくということで。</p> <p>ただし、バスを購入したら終わりではなく、その後の費用が大きな課題になります。限られた予算内で最も効率的に、登米市に合った全域サービスをどう提供するかが重要で、何でもやればいいわけではないということを考えながら進めていかなければなりません。</p> <p>他にご意見ありますか。</p>
<p>委員</p>	<p>現在の図書館でも、新しい図書館でも、全域サービスをどう実現するかが課題です。特に、エリアの端に住む方々に本をどう届けるかは、図書館が古くても新しくても変わらない問題です。</p> <p>全域サービスやアウトリーチサービスの実施が難しく、特に移動図書館の費用対効果が低いため、効率的な方法を模索する必要があります。また、図書館が佐沼だけに一極集中して、住民が見捨てられたと感じることを避け、どこに住んでいても本を届ける方法を考えるべきです。</p> <p>インターネットでの蔵書検索や読書貯金通帳の導入など、少しずつサービスを改善し、このペースで効率化を進めていくべきです。</p> <p>しかし、図書館構想では、公民館図書室がなくなる計画になっており、その後どうサービスを提供するかが問題です。公民館の図書館機能をどう維持するかが重要で、配本や返却の受け渡しを委託する流れも考えられます。</p> <p>また、将来的には、新しい本の届け方として、電子図書館の役割が大きくなっていくのではないかと考えています。AI技術の進展により、遠くの住民も自分のデバイスで本を読み取れるようになる可能性があります。これにより、図書館に来られない人々にも本を届ける新しい方法が実現できると考えています。</p>
<p>委員長</p>	<p>公民館図書室を廃止するという話ですが事実ですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>図書館構想には、迫図書館、登米図書館、中田図書室の再編統合については記載されていますが、公民館図書室は従来どおり残す方向で進めています。</p> <p>むしろ、サービススポットとして、公民館図書館にはない図書館の本を身近な公民館等で借りられるような体制を整えていきたいと考えています。また、図書館職員による情報提供や専門的な助言等を通じて、公民館図書室の充実を図っていく方針です。</p>
<p>委員長</p>	<p>資料にもあるとおり、公民館図書室の充実を図ることにしていますので、廃止するというようなことはもちろんありません。</p> <p>電子図書館については、今後、例えばバーチャル的に書架が並ぶような空間をつくることも可能です。利用者が本を選べば、デバイスで直接読むことができるようになります。それは、全域サービスの一つの解決になるかと思っています。</p>

<p>委員</p>	<p>ただし、電子図書館だけで全ての問題が解決するわけではなく、リアルな場も絶対に必要ですので、公民館図書室も残さなければならないし、人が集まる場を確保することも大事だと思います。</p> <p>全域サービスの問題は、登米市だけでなく、多くの市町村が抱えている課題であり、解決には複合的なアプローチが求められます。例えば、学校や保育園との連携や、商店で本を置くなどの方法も有効です。市民参画を進め、地域ごとに必要なサービスを提供するための議論が今後必要です。</p> <p>現状では、利用者が非常に少ないため、より多くの市民に利用してもらえるようにするための努力も必要不可欠です。</p> <p>他にご意見あればどうぞ。</p> <p>全域サービスについて、これができるんだったら箱物を作らなくてもいいのではないかと思ってきました。拠点があつての全域サービスだとは思いますが、果たして箱物がなくてはできないことなのか疑問があります。</p> <p>それから、利用者が少ないのは関心がないからではなく、登米市の図書館が必要なものを持っていないから行かないだけだと思います。</p> <p>実際、子供たちは南三陸や花泉の図書室には通っています。それは、そこに行けば必要な本があるからです。使いやすく、行きやすい図書館があれば、もっと多くの人を利用すると思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>おっしゃるとおりです。他の方、何かあります。</p>
<p>委員</p>	<p>話を聞いていて、現状の公民館と新図書館の流れが分断されている状態なので、今の話を行動に移すのは一番難しい部分なのではないかと感じます。</p> <p>新しい図書館ができてから進めるべきことなのか、それとも現段階から進めていけるものなのか、聞きしたいと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>現状でも、できないわけではありません。ただし、そのためには人手やお金が必要になりますから、市の姿勢の問題になります。</p> <p>理想としては、新しい図書館ができてから全域サービスを始めるのではなく、現段階からできることを進めていくべきです。例えば、図書館システムを開館前に整備したり、データ連携やイベント連携などもできるはずです。</p> <p>できることから少しずつ進めていき、新図書館で大きく飛躍するイメージです。何もしないで6年間待つというのは得策ではなく、少しでも新しい図書館に向けて活動を進めることが望ましいと思います。</p> <p>現状、図書館の利用率が3%では問題なので、少しでも図書館の魅力を増すために職員も考えて、次のステップに進むべきだと感じています。</p> <p>まだご発言されてない方、何かありますか。</p>
<p>委員</p>	<p>読書活動の普及・啓発のところに、「地元企業等による雑誌スポンサー制度の充実」とありますが、内容を教えてもらいたいと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>現在も市立図書館では、地元の企業から雑誌の購入費を支援していただく雑誌スポンサー制度を実施しています。</p> <p>この制度を通じて、読書活動の重要性を理解してもらい、市民の読書活動が</p>

<p>委員</p>	<p>活発になっていくことを期待しています。</p> <p>図書館に求められるサービスとして、本を読んでもらうというホスピタリティは感じられましたが、「図書館に来て、ゆっくり時間を使ってください」といった内容も必要ではないかと思いました。</p> <p>図書館の建築に当たっては、キッズスペースの工夫だとか、子供たちとご家族が過ごせるような機能を盛り込んでも良いのではないかと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>雑誌スポンサー制度については、登米市の人口を考えると、かなり良くやっているエリアだと思います。</p> <p>主に地元の企業から年間1万円ぐらいを本として寄付いただくものですが、これは一方的な寄付に過ぎないので、スポンサー側のメリットが少なくなって、続かなくなってしまうんです。</p> <p>ですから、この制度をもう少し工夫して、例えばスポンサー企業同士で交流を促すことも考えていいんじゃないかと思います。秋田県立図書館では、スポンサー企業が定期的集まって話し合ったり、互いにビジネスを支援し合ったりしています。</p> <p>雑誌を一方的に寄付する関係ではなく、図書館と地域企業、団体がウィンウィンの関係を築くことが大事です。そうしないと、長続きしないと思います。</p> <p>この制度が単なる資金調達の手段だと思われると困ります。スポンサーからお金をもらっても、実際にかかる準備費用や人件費の方が高いこともありますから、単にお金が足りないからやっているという見方は避けてほしいです。</p> <p>むしろ、この制度を活用して、地域の活性化や企業同士の交流の場を作ることが一番重要です。目的を考えた上で、雑誌スポンサー制度の背景を理解し、その効果的な使い方を考えていただきたいと思います。</p> <p>ご発言されていない方、どちらでも結構ですのでどうぞ。</p>
<p>委員</p>	<p>今の図書館は狭いため、スポンサー企業が集まって何かをするのも難しいと思います。ですから、やはり大きな拠点が必要だと感じます。</p> <p>それと、本を読まない人たちをどうやって集めるか。登米市の人たちは新しいもの好きなので、図書館が建てば、まずはみんな一度は来るとは思いますが、実際に本を手にとって読んでもらうためには、あちこちに本を置いて、面白いでしょと見せて、読んで聞かせることが大切だと思います。</p> <p>保育園や幼稚園、お茶っこ飲み会のような集まりの場で、おはなし会やブックトークができる人材を育てることも必要なことだと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>おっしゃるとおりです。</p>
<p>委員</p>	<p>学校との連携について、新しい図書館で積極的にそういった活動を行ったり、いろいろ交流ができたとしても素敵だと思います。</p> <p>現在の3館を一つに統合することで、例えば、開館時間を延長したり、ICの活用や運営資源の一元化が可能になることが見えてきました。</p> <p>学校の図書館や学級担任が一生懸命行っている並行読書用の資料作成なども、図書館の司書と連携することで、もっと効率的にできるようになると思います。また、学校で新しく必要とされる資料があれば、気軽に相談できるよう</p>

<p>委員長</p>	<p>なネットワークが充実するとありがたいです。</p> <p>図書館と学校との連携によって、つながりが深まることで、その間に居る子供たちを通じて、家庭にも読書の輪が広がっていくのではないかと思います。</p> <p>今日も夢を膨らませながら、お話をきかせていただいていたので、ぜひ素敵な図書館が作られることを期待しています。</p> <p>保育園での読み聞かせや学校図書館との連携は、非常に重要な部分です。</p> <p>これに関しては夢ではなく、当たり前のことしか書いていません。当然やらなければいけないことで、どこの図書館でも行っていることです。</p> <p>登米市では学校司書は置いていないようですが、今後設置を考えていかなければならない部分です。学校図書館を通じて、子供たちが読書を楽しむだけでなく、授業にもつなげていけるような仕掛けが必要です。</p> <p>幼少期からの読書体験を積み重ねていくことが、将来的に大きな影響を与えます。特に、高校に進学する頃には、読書離れが顕著になり、20代以降に読書しない人が多くなるのは、この基盤が欠けているからです。</p> <p>登米市の現状を見ると、特に20代から50代の女性があまり図書館を利用していないことが課題です。これは、図書館の貧しさだけでなく、読書体験が不足しているためです。</p> <p>したがって、学校図書館や保育園での読書体験は、絶対に必要です。この部分は必ず実行すべきだと思います。難しいことは一つも書いてありませんので、図書館職員に少し頑張っていただきたいと思います。</p> <p>他に何かありますか。</p>
<p>委員</p>	<p>教科書が変わり、例えば「ヒロシマの歌」がわずか2ページに縮小され、その続きはQRコードを使ってリンクから読むようになっていきます。これが現代の教科書の作りで、1人1台のタブレットを持っていることを前提に構成されています。学校現場では、このようにタブレットを使って最新情報をどんどん取り入れ、AIが作った資料を生徒が参考にしている状況です。</p> <p>昔から感想文や感想画のコンクールで作品の類似性を吟味していましたが、今はAIの活用で更に巧妙になり、見分けることが難しい時代になっています。こうした現状の中で教員がファクトチェックを行いながら子供の作文を県に送り出しているということは教育現場のすごい努力だと思います。</p> <p>電子図書については、来るべき時代において、自分のデバイスで自由に本が選べて、開いて読めるということは、必要なことだと感じています。紙媒体の本だけでなく、これからの時代に合った図書館のあり方を検討されるべきだと思います。</p> <p>また、学校現場での工夫も必要です。例えば、放課後学習を図書館で行ったり、バスを待つ子供たちを図書館に集めたりするなど、そうした取組を進めることで、図書館の利用率は、少しずつ増加するはずで、市に任せるだけでなく、各部署の創意工夫が求められると思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>電子書籍という言葉は、一般的に商業的なものを指しますので、民間のサービスになります。一方、電子図書館というのは、それに限りません。</p> <p>北広島市では、社会科の副読本をボランティアの方々、図書館、学校が連携して作成しています。外部資源を使いますので、そこに図書館が関わり、市民</p>

<p>委員</p>	<p>も関わり、学校の教員も関わる。学校は非常に忙しいですから、教員だけに任せるのは無理です。自分たちの文化を知り、子供たちに伝えることは、市民の意欲につながりますので是非考えてほしいと思います。</p> <p>登米市には、非常に貴重な資料が多くありますので、それをもっと大切にしてくださいと思います。</p> <p>時間ももうそろそろですので、全般的にご意見があればどうぞ。</p> <p>アウトリーチサービスについて、最近の新しい図書館では、課題解決支援サービスが充実してきています。例えば、紫波町図書館では、図書館で待っているのではなく、司書が市民の中に積極的に入り、市民の課題を拾い上げ、限られた資源の中で図書館ができることを模索しています。これが現在の図書館のスタンダードなスタイルになりつつあります。これをアウトリーチサービスの部分に入れてほしいと思います。</p> <p>また、学校との連携に関して、学校図書館支援センターの設置と学校司書の増員をお願いしたいです。東京では、学校図書館スタンプラリーという取組が行われていて、学校図書館を一般開放して地域住民が気軽に利用できるようにしています。登米市の学校図書館も、もっと来やすく身近に感じてもらえる場所にしてほしいと思います。</p> <p>最後に、読書推進条例の制定を提案します。読書推進のための条例があれば、予算の獲得もしやすくなり、読書推進にも力を入れやすくなるのではないのでしょうか。読書推進条例を制定している自治体は多くありますので、ぜひ検討していただきたいと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>学校図書館推進センターというよりは、学校だけに限らず、子供全般に対応できるようにもう少し広範なものにした方がよいと思います。</p> <p>秋田県の読書推進条例の場合、これが成立したのは、学校図書館の司書たちが運動を起こしたことがきっかけでした。実際、条例を作るには運動が重要で、議会を動かすことが大事です。皆さんにも運動を盛り上げてほしいと思います。</p> <p>また、課題解決という言葉はあまり聞かないかと思いますが、課題とは産業だったり、高齢者化だったり、少子化だったり、まさしく地域の様々な課題です。なぜ、これが必要かという、例えば男性の30代から50代の図書館利用は圧倒的に少ない。それは役立つ情報がないからです。そういったときに仕事に役立つ資料や情報、場が必要になってくるのです。これは今、全国の図書館が取り組んでいます。図書館が地域の課題解決に貢献するためには、地域の団体や組織と積極的に連携する必要があります。図書館だけではできないことが多いので、連携を深めることが重要です。</p> <p>予定の時間になりましたが、まだご意見などありますか。</p>
<p>委員</p>	<p>登米市のホームページから図書館の情報にたどり着くには非常に分かりにくく、大体の人は検索エンジンを使ってダイレクトに図書館情報にアクセスしています。蔵書検索もヒットしづらいし、郷土資料が含まれていません。</p> <p>図書館は知の殿堂ですから、必要な資料をすぐに提供できる体制を整えるべきです。</p>
<p>委員長</p>	<p>ホームページを単独で作るのは当たり前なので、作ることになると思います。</p>

事務局	<p>蔵書検索については、地域資料の把握率やメタデータの技術的な問題で検索結果がうまく出ないことがあります。Google や Amazon のように、キーワードを間違えても適切な情報が表示されるシステムを目指すべきです。</p> <p>時間を少しオーバーしてしまいましたが、本日、皆さんからいただいた意見については、今後の施策に活かし、次のステップに進んでいければいいと思います。協議はこれで終わりたいと思います。事務局お返しします。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、次第4の「その他」に入りますが、事務局からは特にございませんが、委員皆様から何かございますか。</p> <p>無いようですので、閉会に入ります。閉会の挨拶を西條副委員長お願いします。</p> <p>【 副委員長挨拶 】</p>
事務局	<p>以上をもちまして、第3回登米市新図書館機能検討委員会を閉会します。本日は大変ありがとうございました。</p>